

今月のお知らせ

事務所休業のお知らせ
10月7日(金)から8日(土)
社員旅行のため、休業させて
いただきます。
山形方面に行ってきます。

第 2 7 2 号
平成 2 8 年 1 0 月 1 日
税 理 士 法 人 大 嶋 会 計
公 認 会 計 士 ・ 税 理 士
大 嶋 良 弘
T E L 0 4 3 - 2 4 1 - 6 1 2 1
F A X 0 4 3 - 2 4 3 - 3 4 3 0
U R L <http://www.osmk-ohb.co.jp>
E - M a i l yohshima@osmk-ohb.co.jp

今日(9月30日)は、やっとさわやかな初秋を感じる日です。

それにしても、8月に続き、9月も台風やら突然の豪雨に翻弄されました。

みなさま、被害なく過ごすことができましたでしょうか。

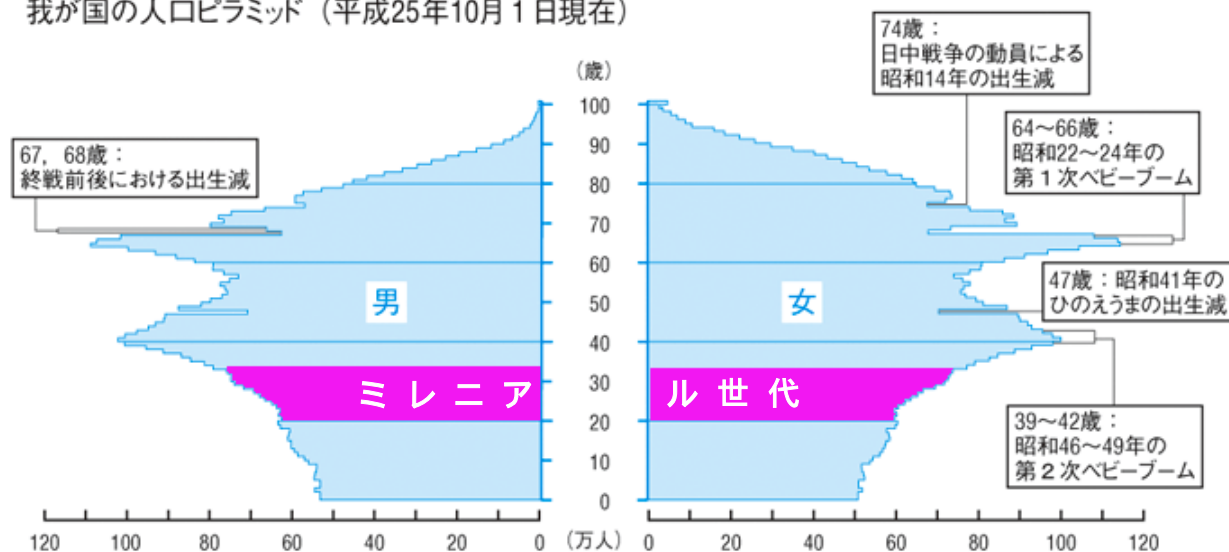
台風は、秋に来るものと思っていましたが、ひと月以上も早くやってくるようになりました。

季節の長さ、気温等に30年40年前とは大きく違いがあるように感じます。

人間の世代間にも、気づけば大きな世代間の違いがあるようです。

20歳から35歳の世代とそれ以上の世代間の格差です。

我が国の人口ピラミッド(平成25年10月1日現在)



経済同友会は、過去の消費行動、職業観、社会的価値観と大きく異なる20～35歳の若年世代

(ミレニアル世代)の処遇を重視した経営戦略へ転換する必要があると訴えています。

ミレニアル世代とは

「ミレニアル世代」とは、2000年以降に成人、あるいは社会人になる世代を指す言葉です。

ミレニアル(Millennial)は、英語で「千年紀の」という意味。おもに米国で1980～2000年頃に生まれた若者を「ミレニアル世代」「新千年紀世代」と呼び、それ以前の世代とは異なる特性を持つと注目されています。

デジタル機器やインターネットが普及した環境に生まれ育った最初の世代で、“デジタルネイティブ”と呼ばれることも。

SNSなどを利用した情報の収集・発信を得意とする一方、共同体(コミュニティ)への帰属意識が強く、仲間とのつながりを大切にしている傾向があるといわれます。

同友会の「米州委員会」の提言によると、アメリカでは、ミレニアル世代社員が社会の中核を占めるころにはこれまでとまったく異なる価値観が支配し、見たことのない国の姿が出現するとみえています。

生まれつきデジタル機器を駆使し、インターネットによるグローバル化が浸透している世代であり、従来の世代とは隔絶しているとのこと。

これに対し、日本ではミレニアル世代社員に対する認識は乏しく、近い将来において日本企業は相当の劣勢を強いられると危惧しています。

ミレニアル世代は、今の社会中心世代(40歳から60歳代)から見ると異質人材と映っていると思えます。

しかし、この世代がやがて中心世代となるのです。

この世代の社員の充実感を確保し意欲を引き出して行くため、人事制度や組織文化などあらゆる制度の抜本的刷新を図るよう求めています。

異質人材との共働、協力の促進をカギとしています。

事業の承継とともに自社の在り方、企業文化を異質人材の視点から考えることも大事かと思えます。

以上